opusdei.org

## 黙想:聖ホセマリア 列聖記念日(10月6 日)

黙想のテーマ:「聖ホセマリアは神の働きに身を委ねた」 「聖人の模範」「聖人の親密 さと執り成し」

聖ホセマリアは神の働きに身を委ね た

聖人の模範

聖人の親密さと執り成し

2002年10月6日、聖ホセマリアは ローマのサンピエトロ広場で列聖さ れました。ヨハネ・パウロ二世は説 教の中で、オプス・デイの創立者 が、普通の生活の中で聖性を目指す ようにキリスト者を励ましたことを 特に重要なこととして強調しまし た。「彼は、霊的な子たちが、内的 生活すなわち神との関係の生活と、 家庭・職業・社会生活といった小さ な地上的な現実に満ちた生活とを分 離せずに、一つの『聖なる、神に満 たされた』生活を築くことができる よう、聖霊に祈るよう絶えず招いて いましたしい。

私たちは皆、常にイエスの近くにと どまるよう召されています。この関 係は私たちを次第に平安で満たして いきますが、それはどんなことが起 ころうとも、私たちが神の御手の中 にいることをこれまで以上にはっき りと悟らせるからです。「信仰を持 つキリスト者の通常の生活は、働い ているときも休んでいるときも、 でいるときもはっているときも神がいつもりでいるときも神がいつもアとれなときも神がいつリョンとをです」である生活です。この人生のし、「神ははないのかではないのができます。ないの数を癒し、「神れたながのができます。とは協力します。ときもとに協力します。

しかしながら、私たちがこの使命を 考えるとき、それは私たちのためためため、 もしろより優秀な人れまり優秀なく、 かだと感じるかもちがられまり がいた者にあったがらならいではありません。彼らの心の おたではありません。彼らの心のの はあった上で、 はなったや、 はなったのとでお呼びになったの でおいたのとでおいて となったのとでおいて となったのとでおいて となったのとでおいて となったのとでおいて となったのとでおいて となったのとでおいて でなったのとでおいて す。これは私たちに対してもなさっていることです」[4]。聖ホセマリアがオプス・デイを創立したとき、似たようなことを経験しました。ラッツィンガー枢機卿は列聖式の日に掲載された記事でこう書いています。「ホセマリア・エスクリバーが、私たちはみな聖人になるように召された。

たちはみな聖人になるように召されていると言うとき、それは事実、彼の個人的な経験について言っているように私には思えます。というのも、彼は決して自分一人で信じられないようなことをしたのではなく、神の御業に身を任せたからです」

[5]0

聖人を列聖するとき、教会はその人をキリストに倣う模範として示します。聖人たちはキリスト教的希望をもって生き、そのあかしによって、 どのような外的環境とも両立できる 喜びと平安で彼らの人生を満たしてくださった主に従う価値があることを、私たちに示しているのです。

同時に、すべての聖人たちは、神に 寄り添って生きることは、自分の力 によって達成されるものではなく、 神の恵みの結果であることを、私た ちに思い起こさせてくれます。神は 確かに彼らの自由な選択と、しばし ば彼らの努力を頼みにしています が、彼らを聖なる者としたのは神で す。彼らは到達不可能なモデルでは なく、むしろ「地に足をつけて生き た人々であり、成功も失敗もある 日々の苦難を経験し、何度も立ち上 がり旅を続ける力を主に見出しまし た上で、聖ホセマリアは、自分の人 生は毎日何度も何度も始め、また再 び始めることであったと述べていま す。彼はこの努力を「スポーツマン 精神」と呼びました。「真剣になっ て取り組むべきことを、スポーツマ ン精神で始めればすこぶる良い結果 が出る。いくつかの局面で負けてしまった。仕方がない、しかし、堅忍すれば最後には勝てるだろう」
[7]。

聖性への道は、孤立した英雄的行為 だけで成り立っているのではなく、 日々の多くの愛によって成り立って います。私たちは皆、キリストの配 慮と繊細さをもって互いに愛し合う ことができます。聖人たちの生活の 中で、私たちはこの「日々の愛」が 具体的な行為に表されているのを見 ます。聖人たちから、私たちは一人 ひとりのうちに「〈ご自分を隠され る〉神(イザヤ45・15)に出会うこ とを学びます。聖人たちのおかげ で、神は現われ、見えるようにな り、私たちのただ中に現存するよう になるのです | 187。

それゆえ、あらゆる聖人は、神のことばから流れ出る光線のようなもの」『であり、キリストの顔とその教えのさまざまな側面を私たちに示

してくれます。『カトリック教会のカテキズム』が教えているように、これらの霊性は「それぞれの多様を思った、聖霊の純粋で独自の光をセオリアは言います。「聖性とは、主との一致そのもののことです。主性との親しさが深ければ深いほど、聖性はより優れているということになります」『III」。

聖人たちは「神を観想し神を賛美し、地上に残してきた人々を絶えず気遣う。神の喜びの中に入るとき彼らは『多くのことを任された』(ロタイ25・21参照)。彼らの執り成なをは、神の計画に対する最も高貴なたちは、神の計画に対する最も高人なをはである」である」である」である」では、私たちに聖性への道を示すだけでなる。彼らの活動は「地上での伝記に限定

されるものではなく、死後神のうち、死後神のうち、の世ではなるとも含まれ明のではなっているとがしたものではないです。からます。のではないではないではないではないではないではないではいるが、その思いではないではないで生きないのないないといます。

同じような困難を経験した彼らは、 たとえ私たちが罪への傾きを福をの事にとえるない。 を要性の方が私たちの異ない。 を思いはなかに、ないます。 とを思いはないです。 とをが手をはいるといるとない。 をあるは私たちのでは私たちのです。 は私たちのために、 で、 はないるとともにでいるとともにでいる。 はいいるとともにでいる。 はいいるとともにでいる。 はいいるとともにでいる。 はいいるとともにでいる。 はいいるのですして、 はないですして、 はないですして、

聖母はすべての聖人の生活の中に存在します。聖ホセマリアが、自らの人生から模範として私たちに望んでいた唯一のことは、マリアへの愛でした。私たちはオプス・デイの創立者の言葉で祈ることができます。

「『聖母よ、御身なら、わたしが決定的で栄光に輝く飛行を始め、やがて神の聖心に届くよう、お助けになることができます』。繰り返し、こう申し上げなさい。必ず聞き届けて

くださるから、信じておまかせしな さい」[15]。

[1] 聖ヨハネ・パウロ二世、説教、 2002年10月6日。

- [2] 同。
- [3] 同。
- [4] フェルナンド・オカリス、メッセージ、2020年7月20日。
- [5] ヨセフ・ラッツィンガー『神の働くままに』オッセルバトーレ・ロマーノ、2002年10月6日。
- [6] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2019年11月1日。
- [7] 聖ホセマリア『拓』169番。

- [8] 聖ヨハネ・パウロ二世、「お告げの祈り」でのことば、1983年11月 1日。
- [9] ベネディクト十六世『主のこと ば』48番。
- <u>[10]</u> カトリック教会のカテキズム、 2684番。
- [11] 聖ホセマリア『教会を愛する』 5番。
- [12] カトリック教会のカテキズム、2683番。
- [13] ベネディクト十六世、「お告げの祈り」でのことば、2010年11月1日。
- [14] フランシスコ、一般謁見演説、 2021年4月7日
- [15] 聖ホセマリア『鍛』994番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-sei-josemaria-reppuku/(2025/12/16)